

臨時農業生産情報

(高温に対する技術対策)

平成25年8月8日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

仙台管区气象台が8月6日に発表した「高温に関する異常天候早期警戒情報（東北地方）」によると、8月11日から8月20日頃まで気温が平年よりかなり高くなる見込みとなっています。

このため、次の事項に留意し、農作物の栽培管理等に万全を期してください。

1 水 稲

- (1) 出穂後20日間は、高温により、^{どうわれ}胴割米などが発生し品質が低下し易くなるので、開花が終了した水田では、水の入換えや、可能であればかけ流しを行い、水田水温の上昇を防ぐ。
なお、早期落水は品質低下を助長するので、落水の目安の「乾田で出穂後30～35日、湿田で出穂後20～25日」を守る。
- (2) 穂いもちや斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想されているので、適期防除を徹底する。

2 野菜・花き

- (1) 施設栽培では、換気や寒冷紗被覆など温度管理を徹底をするほか、地温を下げるため、かん水は、土壌水分に留意しながら、1回当たりの水量を少なくし、回数を多くする。花きで短日処理を行っている場合は、被覆資材の夜間解放を行い、内部が高温にならないよう管理する。
- (2) 果菜類では、草勢を保つため追肥を行うほか、不良果・被害果を早めに取り除く。また、老化葉、黄色葉を中心に摘葉し、水分の蒸散抑制に努める。
- (3) 軟腐病やハダニなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。また、軟腐病等が発病した株は早めに抜き取り処分する。
- (4) 生理障害がみられる場合は、必要に応じて葉面散布を行う。

3 りんご等果樹

徒長枝の整理、支柱入れや枝つりなどは、日焼けが発生しないよう高温時には作業を控える。

4 畜 産

- (1) 畜舎の防暑対策
 - ア 畜舎への熱の侵入を防止するため、日除けを設けたり屋根や舎内に散水・放水する等により温度を下げる。
 - イ 窓を開放したり換気扇・送風機などを利用して、舎内の換気を良くする。

(2) 家畜の飼養管理

- ア 朝、夕の涼しい時に飼料を給与する。また、給与回数を増やし乾物摂取量を高める。
- イ 過密飼育を避け、ストレスの軽減を図る。
- ウ 新鮮な冷水を常に飲めるようにする。
- エ 特に、乳用牛では乳量や乳成分が下がる傾向にあるので、栄養価が高く、嗜好性の良い一番牧草などを給与するとともに、ビタミンやミネラル等も不足しないよう補給する。また、種雄豚の交配は涼しい時を選び、供用は週2回程度とする。

(3) 放牧牛の管理

- ア 放牧は、木陰のある牧区を使い、ミネラルの補給を欠かさないようにするとともに、常に新鮮な冷水を飲めるようにする。
- イ 行動をよく観察し、異常牛の早期発見・早期治療に努める。

5 農作業（熱中症の予防）

- (1) 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる。
- (2) 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(水稻) 農産園芸課稲作振興グループ 腰巡主幹 (野菜、花き) 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ 藤川主査 (りんご等果樹) りんご果樹課生産振興グループ 西館主幹 (畜産) 畜産課経営支援グループ 豊澤主幹
電話番号	(水稻) 直通 017-734-9480、内線 3456 (野菜、花き) 直通 017-734-9481、内線 3461 (りんご等果樹) 直通 017-734-9492、内線 3261 (畜産) 直通 017-734-9496、内線 3274
報道監	農林水産部 八桁農商工連携推進監 内線 3181

【おしらせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンや携帯電話にメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「アップルネット」からお申し込み下さい。